

整理番号	15-10	事務事業名	平和推進事業		作成部署	市民環境部 市民生活課	電話	内線716
事務区分	自治事務	法定受託事務	部長職名	滝本 明	課長職名	武田 隆	作成日	平成17年6月
事務事業開始年度	S63	根拠法令等	なし					
〃 終了予定年度								
事務事業開始のきっかけ(導入当初の目的等)	昭和60年に「非核・核兵器廃絶平和都市宣言」は全国の自治体に広がりを見せ、本市においても昭和63年に「平和都市宣言」を行い、市民に平和への意識・普及啓発活動を開始した。							

1 計画(プラン)

上位施策との関連(総合計画での位置付け)	章	いきいきとした交流と連携のまち	(第 3 章)
	節	平和と人権	(第 4 節)
	施策	平和都市づくり	(第 1 施策)
目的 (ここから成果指標を導きます)	対象 (誰、又は何を)	市民及び市内在学の小・中・高校生	
	意図 (何をねらっているのか、対象をどのような状態にしたいのか)	平和の大切さ、尊さに思いを寄せ、恒久的な平和の実現を祈念する機会を提供する。	
手段 (ここから活動指標を導きます)	市が行った(行う)事務事業の具体的な実施内容(団体補助等)の場合はその補助金による団体の活動内容を記載)	16年度まで	「きたヒロシマ平和展(パネル展)」をエルフィンパークで実施。 「平和の灯」種火保守管理委託。 平和の灯を守る市民の会と共催事業の実施。 市内小・中・高校へのパネルの貸し出し。
		17年度	同上

2 実施(ドウ)

【事業費の推移】

(単位:千円)

区 分		15年度(決算)	16年度(決算)	17年度(予算)	18年度(予定)
直接事業費	国支出金				
	道支出金				
	地方債				
	その他特財				
	一般財源	118	111	119	119
	合計	118	111	119	119
人件費 (概算)	人数(年間)	0.05	0.05	0.05	0.05
	1人当り年間平均人件費	9,000	9,000	9,000	9,000
	= ×	450	450	450	450
総事業費 +		568	561	569	569

【事務事業を評価する指標(ものさし)】

指 標	指 標(算式)	指 標 値			
		15年度	16年度	17年度(目標)	18年度(目標)
活動指標 (事務事業の活動量や実績)	きたヒロシマ平和展来場者数	700人	700人	700人	700人
	パネル貸し出し件数		4件	6件	10件
成果指標 (目的の達成度を測るものさし)	きたヒロシマ平和展来場者数	700人	700人	700人	700人
	パネル貸し出し件数		4件	6件	10件
	(代替指標)				
効率指標 (主要活動単位当たりコスト)					

3 評価(チェック)と改善(アクション)

事務事業を取り巻く社会環境の変化や今後の予測・他市町村の動向等	平和意識啓発事業は、市民に平和について考える機会を多くつくるのが効果につながる。今後、戦争の記憶がますます風化していくに伴い、市民の平和意識啓発事業の重要性は高い。全道の市町村の90%が「平和都市宣言」や「非核・平和の町宣言」を実施している。
---------------------------------	---

【妥当性の評価と改善の方法等】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
行政関与の妥当性 【市が実施すべき事務事業ですか。市民・企業等での実施可能性はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)		中立的公平な立場から宣言を普及・啓発していくことは、市以外では困難である。しかし、広く市民に平和について考える機会を提供することは、市民、企業等によることも可能であり、検討を要する。
目的の妥当性 【社会経済情勢や市民ニーズの変化などから、設定した対象や意図は妥当ですか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	平和意識啓発事業は、市民に平和について考える機会をつくることであり、目的は妥当である。	
手段の妥当性 【現在の手段は適切ですか。もっと効率的で有効な手法はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)		市民への周知方法の工夫、平和の灯を守る市民の会との共催事業をさらに有効な事業とするため、検討する必要がある。
受益者負担の妥当性 【受益者負担の適正化の余地はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入) 該当しない	市民に対する平和意識の啓蒙・啓発活動であるため、受益者負担はなじまない。	

【有効性と効率性の評価と改善の方法】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
有効性の評価 【意図した成果は上がっていますか】	十分成果が上がっている 概ね成果が上がっている あまり成果が上がっていない 成果が上がっていない	市民への周知方法の工夫、平和の灯を守る市民の会との共催事業をさらに有効なものにするため、検討する必要がある。	
効率性の評価 【手法は効率的ですか。コスト節減の方法はありませんか】	十分効率的 概ね効率的 やや非効率 かなり非効率	平和祈念の趣旨を十分に盛り込んだ内容で効率的に実施できている。	

【事務事業担当部局内優先度】

部局で所管するすべての事務事業の中で、この事務事業の位置づけはどの程度ですか

A B C

4 総合判定と今後の方向性

【1次評価】	判定	今後の方向性や改善方法など
事務事業担当部局の総合判定 【上記3の評価と改善を踏まえ、今後の方向性についての総合判定と改善方法を記入】	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	中立的公平な立場から市民への平和意識啓発事業は引続き必要であるが、「平和の灯を守る市民の会」との共催事業をより有効なものとなるよう検討する必要がある。
【2次評価】	判定	今後の方向性等
行財政構造改革推進本部の総合判定	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	市民との協働事業を充実させ、平和意識の普及と啓蒙を図る。